

# 川崎ものづくりブランド10周年記念フォーラム実施概要

【日 時】 平成25年7月10日（水）15時～17時

【会 場】 かながわサイエンスパーク（KSP）西棟701会議室  
（川崎市高津区坂戸3-2-1）

【来場者数】 72名

## ◎プログラム

・開会挨拶 川崎ものづくりブランド推進協議会 会長 山田 長満（川崎商工会議所会頭）  
川崎ものづくりブランド推進協議会 特別顧問 阿部 孝夫（川崎市長）

・川崎ものづくりブランド10年間の取組紹介  
川崎商工会議所 専務理事 小泉 幸洋

### ・ 基調対談

「再起を支えた自社製品～東北ものづくり企業の復興に向けた取組」

聞き手：早稲田大学 産学官研究推進センター インキュベーション推進室 室長

川崎ものづくりブランド推進協議会 企画委員長 鶴飼 信一 氏

企 業：石村工業株式会社 代表取締役 石村 眞一 氏（岩手県釜石市）

### ・ パネルディスカッション

自社製品の開発と地域ブランド等の有効な公的施策の活用について意見交換を行います。

コーディネータ：鶴飼 信一 氏

企 業：株式会社ユニオン産業 代表取締役 森川 真彦 氏（川崎市中原区）

：株式会社弘機商会 代表取締役 高原 隆一 氏（東京都大田区）

：石村工業株式会社 代表取締役 石村 眞一 氏（岩手県釜石市）

## ■ 開会挨拶

川崎ものづくりブランド推進協議会  
会長 山田 長満（川崎商工会議所会頭）



川崎ものづくりブランド推進協議会  
特別顧問 阿部 孝夫（川崎市長）



# 川崎ものづくりブランド10周年記念フォーラム実施概要

## 川崎ものづくりブランド10年間の取組紹介

川崎商工会議所 専務理事 小泉 幸洋



### 1) 川崎ものづくりブランドの概要

- ◎川崎ものづくりブランド推進協議会とは  
川崎市・川崎商工会議所が事務局となり、市役所、市内の各種機関や金融機関などから構成される。
- ◎川崎ものづくりブランドの目的  
市内製造業者が生み出した優れた自社製品・技術を紹介し、川崎市の産業の活性化を図る。
- ◎川崎ものづくりブランド認定製品と技術  
川崎市内の企業(本社はしくは製造・開発業者)で生まれた製品・技術・素材を対象。これまで(10年間)で累計700件の製品・技術・素材が認定されている。(1は取扱件数の認定もある。)
- ◎川崎ものづくりブランドの認定活動  
(1) 認定書・認定書の交付  
(2) 川崎ものづくりブランドのロゴマークの採用権限の付与  
(3) 認定製品の紹介冊子への掲載  
(4) 川崎商工会議所および川崎市産業振興会館内での常設展示  
(5) 川崎ものづくりブランド推進協議会、行政、民間機関などの広報媒体への掲載  
(6) マスコミ、企業等へのPR支援  
(7) 国内外各種展覧会への出展支援  
(8) 認定相談・アドバイザーの派遣  
(9) 国内外最大の技術情報検索サイト「イブ」列と連携したPR支援  
(10) 川崎ものづくりブランド認定企業を対象とした展示会の出展権付

2013.7.10 川崎ものづくりブランド10周年記念フォーラム 1

これまでのものづくりブランドの10年間の取組と認定製品の紹介を行いました。

## 基調対談「再起を支えた自社製品～東北ものづくり企業の復興に向けた取組」

<講演者>

聞き手：早稲田大学 産学官研究推進センター  
インキュベーション推進室 室長  
川崎ものづくりブランド推進協議会  
企画委員長 鶴飼 信一 氏



企業：石村工業株式会社  
代表取締役 石村 眞一 氏  
(岩手県釜石市)



石村工業(株)は、創業から釜石市内の大手製鉄所の下請けとして事業を展開してきましたが、製鉄所の高炉休止により事業の転換を図りました。試行錯誤の中で自社製品の開発に取り組み、ペレット・薪兼用ストーブ「クラフトマン」や高速ワカメ攪拌塩蔵機「しおまる」などの独自の自社製品の開発に取り組み、製品化を果たし、順調に業績を伸ばしてきたところ、2011年の東日本大震災で被災し、大きな損害を被りました。その後、「しおまる」と「クラフトマン」のふたつの自社開発製品を事業の柱に、震災の年の5月に工場を再開するまでの過程を東日本大震災被災後の様子を交えて紹介し、事業所が全壊した同社がどのような思いで再起を決意し、再起を果たしたか、鶴飼教授との対談を通じて伺いました。

# 川崎ものづくりブランド10周年記念フォーラム実施概要

## ■パネルディスカッションの様子

自社製品を開発し、地域ブランド等の公的支援を有効に活用している(株)ユニオン産業（中原区）森川社長、(株)弘機商会（大田区）高原社長に登壇していただき、石村社長を交えて、鵜飼教授のコーディネートにより、パネルディスカッションを行いました。

株式会社ユニオン産業  
代表取締役 森川 真彦 氏  
(川崎市中原区)



(株)ユニオン産業は、プラスチック成型加工によるカーアクセサリを主力製品として製造し、その後自動車関連製品や工業部品等に事業展開するとともに、独自のアイデアで様々な商品を生み出してきており、長年にわたって環境にやさしいプラスチック材料の開発に取り組んできました。竹や麦など8種類の素材を原料とし、病原性大腸菌O-157や黄色ブドウ球菌などに対し高い抗菌作用を有するとともに、消臭効果に優れ、廃棄時の二酸化炭素の発生を抑制するプラスチック樹脂「UNI-PELE」を開発し、「川崎ものづくりブランド」などの公的施策の活用やさまざまな連携により、安全安心を具現化する製品づくりに取り組んでいることなどが紹介されました。

株式会社弘機商会  
代表取締役 高原 隆一 氏  
(東京都大田区)



(株)弘機商会は、日本で最初にカシメ機（リベッティングマシン）を手掛けて以来、現在に至るまでスタンダードマシンとして位置づけられる空圧リベッティングマシンの製作を始め、多くの特許を取得するとともに、創業から60年あまりで1万社以上の導入実績を積み重ねてきました。「大田区ものづくり優秀技能者（大田の工匠（こうしょう）100人）」や高度で多種多様な技術力とモノづくりへの情熱を持つ大田区企業が登録をする「大田ブランド」、新技術新製品開発のための助成制度などの大田区の公的施策を積極的に活用するとともに、海外にも積極的に事業を展開していることなどが紹介されました。

## 川崎ものづくりブランド10周年記念フォーラム実施概要



ディスカッションでは、

- ・ 新製品新技術開発のテーマの出発点・きっかけ
- ・ マーケティング・営業の方法
- ・ 新規の引き合いのきっかけ
- ・ 国、県、市、区などの助成金の活用
- ・ 後継者の育成 などについて

鵜飼教授のコーディネートにより、お話を伺いました。

まとめとして、山田会頭、阿部市長よりコメントがされた後、コーディネータの鵜飼教授より

- ・ 起業家精神とは、常に更新と発展を図ること
- ・ 難題に直面したときこそが変革の好機
- ・ 「人にかける、社員にかける、自分にかけること」が重要との総括をしていただき、フォーラムは終了となりました。

### ■フォーラム会場の様子

